

## 【施設状況】

グループ名称	もんぜんぷら座こども広場（じゃん・けん・ぽん）								
指定管理者名	特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト				法人番号	6100005002075			
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副					
構成施設	もんぜんぷら座こども広場（じゃん・けん・ぽん）								
施設分類	06	保健福祉2型		施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制
施設概要	床面積860㎡ 遊び場、活動室、相談室、会議室、おひるね室、授乳室、おむつ替えコーナー、こどもトイレ、親子トイレ受付、事務室								
施設設置目的	乳児及び幼児とその親子の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進に資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。								
基本方針等	指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根ざした施設となることを目指す。								
主な実施事業	①子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てに関する情報提供 ④あそびに関する指導及び助言 ⑤その他子育ての支援に関すること								

## 【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	協定、実施計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	協定、実施計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	協定、計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

## 【評価項目】

## 1 指定管理者の健全性

指定管理者名	特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト			指定回数	3 回	
指定期間	平成24年4月1日	～	平成29年3月31日	5年	管理運営開始日	平成18年4月1日
指定管理者の健全性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。					評価
	特記事項 (問題等があった場合に、その内容等を記入)					4

2 施設の有効活用

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)	利用区分等	単位	H25	H26	H27	H28	対前年比	評価
	入場者	人	52,408	47,930	49,239	47,193	96%	
	新規登録乳幼児数	人			2,431	2,292	94%	
	専門家相談件数	人	444	513	511	505	99%	
	ホームスタート訪問家庭数	人			35	37	106%	
							#####	
							#####	
							#####	
(特記事項)								

  

事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案	追加事業、未実施事業及び未実施の理由	4
	市指定事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て中の親とこどもの交流に関する事業</li> <li>子育てに関する相談</li> <li>子育てグループ等の育成</li> <li>子育てに関する情報の提供</li> <li>あそびに関する指導及び助言</li> <li>子育て情報誌の発行</li> <li>子育て講座、イベントの開催</li> <li>ホームスタート事業(訪問型子育て支援事業)</li> <li>その他子育て支援に関する業務</li> </ul>		
自主事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>「子育て中のお母さんのためのリフレッシュ講座」日頃、子どもの世話に追われている母親を対象に、託児付きの講座を開催し、新たな気持ちで子どもに向かうことができるよう、リフレッシュできる時間を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ながのこどもわくわくフェスタ2016」子育て家庭と地域社会をつなげ、核家族化による子育ての孤立感、負担感、不安感の軽減をねらいとし開催した。(参加者数4,200名)</li> <li>「全国子育てひろば実践交流セミナーinながの」(現地事務局として運営 参加者数延べ706名) 子ども・子育て支援新制度がスタートし、地域子育て支援拠点が果たすべき役割、今後期待される役割について話し合った。</li> </ul>		
サービス維持・向上の取組み(広報等)	ホームページでの詳しい案内、ブログで毎日の活動を紹介した。facebookを立ち上げ、情報の発信の機会を多くした。子育て情報誌「じゃんけんぽん」を発行した。週刊長野への情報提供をした(じゃん・けん・ぽん便り「子どもも親もいきいき」として月1回子育て支援の情報を提供)。手洗いの徹底や、施設の清掃、遊具の消毒により、感染症予防対策を行っている。施設の点検・修繕により、常日頃から子育て中の親子が安心して利用できる環境を整えている。			

3 利用者評価

利用者評価	区分	内容	評価
	利用者要望把握	<p>(1) 利用者要望把握方法 利用者アンケート</p> <p>(2) 調査、会議等の内容 利用者アンケート調査・・・平成28年11月17日～11月23日(200名) 利用者会議等・・・サークル活動責任者会議(H29.3.2) 講座等・・・終了後一人ひとりから感想・要望等を把握した。ねんねの会(2ヵ月から寝返り前の乳児と母親を対象とする講座)、ねんねの次の会(寝返り後からハイハイ前の、乳児と母親を対象とする会)、NP講座(親が自分の長所に気づき、子どもを育てるための前向きな方法を体験を通して学ぶ講座)、リフレッシュ講座(保護者の要望を聞き託児付きで講座を行い、リフレッシュの機会とする)、利用者の声コーナー(投書箱により利用者の声を把握)</p> <p>(3) 調査、会議等の結果 利用者アンケート調査・・・スタッフの対応、広く安心・安全な環境として満足している声が多かった。 利用者会議・・・子ども達を遊ばせながら母親同士ゆっくり話ができる場所でありがたい。また、スタッフが笑顔で話しかけやすい、身近な所で小児科医等いろいろな専門家の相談ができありがたいとの声が聞かれた。 講座等・・・「一人で育児していると色々不安なので色々なお母さんと話せて有難い」「出産以来、子どもと初めての外出で同じ月齢の子のお母さんたちと話せてよかった。安心した」「友だちがこちらに居ないので、こういうところに来ると参考になる」「集まりに連れて大人と話す機会ができて良かった」など、孤独感、負担感の解消の場となり、前向きな子育てへとつながることができている。</p>	
利用者からの評価・要望・苦情等	<p>(1) 良好とする評価 アンケート調査結果:じゃんけんぽん利用者の95.5%がスタッフの対応に満足していた。自由記述により、「親切で丁寧、子どもに対する態度が優しく邪険にしない」「押し付けてこず、個々の人の状況を理解してくれる。母親の気持ちに寄り添ってくれている」「親身になって話を聞いてもらえてうれしかった」「子どもをかわいがってくれるし、見守ってくれる」との声が寄せられ、スタッフの話しかけや見守りに対して快く感じている様子が分かった。また、「子どもも親も安心できる環境を提供してくれる」等環境づくりへの配慮等にも満足の声が聞かれた。利用目的として安全な環境、広いスペース、おもちゃが豊富、使用料無料と答えている人が多かった。</p> <p>(2) 苦情・改善等の要望事項 アンケート調査では改善点として ・「駐車場」をあげている人が60%、「日当たり・風通し」6.9%で、指定管理者だけでは改善できない課題も多くみられた。また、「他の利用者とのトラブル」5%であった。 望むこととして ・親子で工作等を定期的に行う「親子教室」が一番多く、次に「託児」、「子育て講習会」の要望が多かった。</p> <p>《対応措置》 ・駐車場については、施設からの距離と割引時間の関係等について、随時保育・幼稚園課に伝えた。 ・利用者同士のトラブルについては、その都度スタッフが間に入り双方の状況の聞き取りをし、対応している。また、臨床心理士による傾聴講座を行いスタッフのブラッシュアップに努めたり、日々の活動で見られる困難な事例に対し、臨床心理士からコンサルテーションを受け、保護者対応にあたった。 ・利用者の要望等については、投書箱を設け、一人ひとりの投書に返答している。 ・託児については、NP講座(無料)、リフレッシュ講座等(一部負担)は託児付きにし、講座に集中できる環境を提供している。個別への対応については、ファミリーサポートの利用を勧めている。</p>		

事業収支 (単位：円)	指定管理者収支（平成28年度）				市の収支				評価
	年度計画額		収支実績額		平成28年度決算		平成27年度決算（前年度）		
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額	
	収入		歳入		歳入		歳入		
	利用料金	78,000	利用料金	70,450	使用料		使用料		3
	指定管理料	17,884,000	指定管理料	16,139,000	雑（納付金）		雑（納付金）		
	委託料		委託料		行政財産目的外使用料		行政財産目的外使用料		
	販売収入等	100,000	販売収入等	148,520	その他		その他		
	その他収入	200,000	その他収入	261,368	国・県補助金	8,398,000	国・県補助金	6,114,000	
	計	18,262,000	計	16,619,338	計	8,398,000	計	6,114,000	
	人件費	13,388,000	人件費	12,986,647	指定管理料	16,139,000	指定管理料	14,915,000	
	設備管理費	134,000	設備管理費	70,711	委託料		委託料		
	備品購入費	222,000	備品購入費		需用費		需用費		
	修繕費	103,000	修繕費	86,412	役務費		役務費		
	光熱水費		光熱水費		使用料・賃借料		使用料・賃借料		
	事業費	2,296,000	事業費	2,210,704	修繕費		修繕費		
	事務経費	595,000	事務経費	820,696	工事請負費		工事請負費	691,200	
	本社経費		本社経費		備品購入費		備品購入費	104,760	
	その他	1,524,000	その他	1,024,772	その他		その他		
	計	18,262,000	計	17,199,942	計	16,139,000	計	15,710,960	
自主事業	収入		収入	94,750					
	支出		支出	75,438					
	自主事業損益	0	自主事業損益	19,312					
損益		0		-561,292	差引	-7,741,000		-9,596,960	
人件費比率【人件費（賃金等）／平成28年度指定管理者事業支出】（支出に占める人件費の割合）								75.5%	
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由									

5 管理運営全般 ※すべて  で、「3」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか  配置実績（うち市内雇用職員数） 運営責任者1人（1）、副責任者2人（2）、チーフスタッフ5人（5）、スタッフ7人（7）、コンサルタント（1）合計16人（16）	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか		
平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか	<input checked="" type="checkbox"/>	
	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか		
経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	
	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか		
施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	
	2 備品はⅠ種、Ⅱ種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか		
セルフモニタリング等	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか		

区分	確認内容	チェック欄	評価	
危機管理体制	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	<input checked="" type="checkbox"/>	3	
	2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか			
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか			
	個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか		<input checked="" type="checkbox"/>
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか		<input checked="" type="checkbox"/>
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	<input checked="" type="checkbox"/>		
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか			

7 地域連携

地域連携	評価			
<p>地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。</p>	4			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>協定内容・指定管理者提案</th> <th>追加された内容、未実施の内容及びその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の組織へ参画連携し、市街地活性化のイベント、行事へ参加。</li> <li>・わんぱく散髪講座、リフレッシュ講座等地元商店街の方々との共催イベントを積極的に行う。</li> <li>・シニアアクティブルームと連携し、折り紙教室、手話で歌おう会等世代間交流を行う。</li> <li>・ボランティアの育成や活動の場の提供。</li> <li>・地域子育て支援センターとの交流（おたより等の情報交換）</li> <li>・信州大学教育学部、清泉女学院短期大学、長野県短期大学等と研究・実習の場として連携し、研究内容等広場運営に活用。長野県短期大学幼児教育学科山口ゼミともちっこ広場を共催で行う。</li> <li>・中学校、高等学校の職場体験等、長野看護専門学校臨地実習受け入れ</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で子育てをキーワードに「ながのこどもわくわくフェスタ」を開催し、子どもに関わる行政を初め、各種団体、個人、グループに広く参加を呼びかけ、現在の子育て・子育て支援について考える場の提供や各組織間の連携を密にした。また地域における子育て・子育て支援の情報提供の場とし、地域全体で子どもの育ちや、子育て中の保護者を支えるサポートネットワークを構築し、子育ての不安感や孤立感の軽減、子どもが健やかに成長できる社会を目指した。（122団体・個人・グループが参加）</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の組織へ参画連携し、市街地活性化のイベント、行事へ参加。</li> <li>・わんぱく散髪講座、リフレッシュ講座等地元商店街の方々との共催イベントを積極的に行う。</li> <li>・シニアアクティブルームと連携し、折り紙教室、手話で歌おう会等世代間交流を行う。</li> <li>・ボランティアの育成や活動の場の提供。</li> <li>・地域子育て支援センターとの交流（おたより等の情報交換）</li> <li>・信州大学教育学部、清泉女学院短期大学、長野県短期大学等と研究・実習の場として連携し、研究内容等広場運営に活用。長野県短期大学幼児教育学科山口ゼミともちっこ広場を共催で行う。</li> <li>・中学校、高等学校の職場体験等、長野看護専門学校臨地実習受け入れ</li> </ul>
協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の組織へ参画連携し、市街地活性化のイベント、行事へ参加。</li> <li>・わんぱく散髪講座、リフレッシュ講座等地元商店街の方々との共催イベントを積極的に行う。</li> <li>・シニアアクティブルームと連携し、折り紙教室、手話で歌おう会等世代間交流を行う。</li> <li>・ボランティアの育成や活動の場の提供。</li> <li>・地域子育て支援センターとの交流（おたより等の情報交換）</li> <li>・信州大学教育学部、清泉女学院短期大学、長野県短期大学等と研究・実習の場として連携し、研究内容等広場運営に活用。長野県短期大学幼児教育学科山口ゼミともちっこ広場を共催で行う。</li> <li>・中学校、高等学校の職場体験等、長野看護専門学校臨地実習受け入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で子育てをキーワードに「ながのこどもわくわくフェスタ」を開催し、子どもに関わる行政を初め、各種団体、個人、グループに広く参加を呼びかけ、現在の子育て・子育て支援について考える場の提供や各組織間の連携を密にした。また地域における子育て・子育て支援の情報提供の場とし、地域全体で子どもの育ちや、子育て中の保護者を支えるサポートネットワークを構築し、子育ての不安感や孤立感の軽減、子どもが健やかに成長できる社会を目指した。（122団体・個人・グループが参加）</li> </ul>			

【総合評価】

評価項目	評価	得点	総合評価
指定管理者の健全性	4	8	<p>総合評価</p> <p>指定管理者の健全性</p> <p>施設の有効活用</p> <p>利用者評価</p> <p>事業収支</p> <p>管理運営全般</p> <p>危機管理体制</p> <p>地域連携</p> <p>--- 基準値</p>
施設の有効活用	4	16	
利用者評価	4	16	
事業収支	3	6	
管理運営全般	4	8	
危機管理体制	3	12	
地域連携	4	8	
<b>合計得点</b>			

評価理由

・子育て支援の拠点施設としての使命を十分理解し、設置目的や基本方針に沿った管理運営であったことから「指定管理者の健全性」は「4」とした。  
 ・市指定事業に加え、子育て世代の実情を踏まえた自主事業が好評を得ている。また、様々なツールを活用した情報発信により、毎年、安定した入場者を獲得していることから「施設の有効活用」は「4」とした。  
 ・利用者の95%がスタッフの親切・丁寧な対応に満足している。また、スタッフのスキルアップのための講座等を開くなど更なる利用者満足を図るための取組みを評価し、「利用者評価」は「4」とした。  
 ・専門性を備えた職員、有資格者が配置され、活動や講座等に生かされている。また、活動記録、帳簿類の整理がされ、必要な報告が滞滞なく実施されていることから「管理運営全般」は「4」とした。  
 ・地域大学と連携し、研究内容を広場運営に活用している。また、地元商店会と積極的に共催イベントを開催するなど市街地の活性化にも貢献していることから「地域連携」は「4」とした。

取組み・改善案等  
(施設所管課)

前年度からの課題	改善状況	改善案等（改善されていない場合）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・転居してきたばかりの家族は地域とのつながりが少ないことから、孤立、不安感を感じさせないよう子育てに向かえる支援の在り方と地域でのサポートに取組む。</li> <li>・利用者は動いていない方や育休中の方が半数であり、仕事への復帰後も継続的な利用をしていただけるよう検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、地域の子育て支援者と実行委員会をつくり「ながのこどもわくわくフェスタin2016」を開催し、地域の子育て支援の状況や情報の提供とともに、支援者同士のネットワークづくりもした。</li> <li>・土、日に子育て講座を開催するなど内容の充実やブログを毎日更新し、継続的な利用促進に努めた。</li> </ul>	

次年度の目標・取組み等  
(施設所管課)

・施設が市街地のもんぜんぽら座内にあるため駐車料金の発生が気になり、利用を控える保護者がいるなかで、地域の保健センターと連携した出張広場の取組みに期待する。

## 指定管理者自己評価

B

## (1) 今年度の取組みに対する評価

## ① サービス向上に向けての取組み

・ホームスタート事業（訪問型子育て支援事業）が広場の事業となり、訪問ボランティアであるホームビジター7名をあらたに育成し、広場に出られない母親37名へ延べ248回訪問し、孤立感の解消、心身の安定、子育ての意欲が向上され、じゃん・けん・ぼんの利用につながった。

・スタッフの利用者同士への介入が課題であり、臨床心理士による傾聴講座（講話・ロールプレイ等）を年6回行いブラッシュアップに努めた。また、日々の活動で見られる困難な事例に対し、臨床心理士からコンサルテーションを受け、保護者対応にあたった。

・居住年数3年未満の若い核家族が、地域とのつながりが少ない中で、孤立感、不安感、負担感を感じ一人で子育てをしている姿が伺われた。そこで、若い家族と地域をつなげるために行政、地域の子育て支援者と実行委員会をつくり「ながのこどもわくわくフェスタin2016」を開催した。122の各種団体、個人、サークルが参加し、地域全体で子どもの育ちや子育て中の保護者を支えるサポートネットワークが確認される機会となり、子育て世代にとっては、地域の子育て支援の確認や情報が提供され、前向きに子育てに向かえる機会となった。

・「働いている」「育休中」である利用者に対し、仕事に復帰後も継続的な利用につながるよう土曜日開催の講座やブログを毎日更新するなど情報発信に努めた。

## ② 業務の効率化に対する取組み

・常勤スタッフが少なく、パート職員が多く意思疎通がなかなか難しい。業務のマニュアル化やシステム化の見直し等随時行っている。

・広場の蛍光灯の削減・・・施設内の蛍光灯を1割ぐらい外し、もんぜんぶら座の電気の消費量減に努めた。

・講座の講師に法人所属の専門家等を活用したり、スタッフがわらべうたベビーマッサージ指導者（8人）の資格を取り、J P I C読書アドバイザー（1人）、絵本セラピスト（3人）、公認コアキッズ体操普及員（4人）、NP認定ファシリテーター（9人）とともに活用し、謝金等を抑制した。またスタッフのネットワーク等でミニコンサートを開催する等ボランティアとの連携に心がけた（年間214回）。

・保険契約の更新にあたり、引き続き、全国的な子育て支援団体である「つどいの広場連絡協議会」が行っている「ひろば保険」に加入し、経費削減に努めた。

・内部的に必要な印刷物、館内でのお知らせの掲示物などは裏紙を使う、遊具等も空き箱、布切れ等を活用し手作りに心がけるなど、日常生活において経費削減に努めた。

## ③ その他

・教育機関と連携し、利用者の社会参加や事業内容の充実を図った。

文化学園長野専門学校との連携：ボランティア授業の一環として、1年生35名が「じゃん・けん・ぼんでボランティア」に参加し、乳幼児や保護者とふれあう機会を通し、将来を見通したライフプランができるよう支援した。

長野看護専門学校臨地実習の受け入れ：母性保健学講座の臨地実習生37名を受け入れ、終了後専門的視点から見た親子の関係等意見交換を行い事業の運営に生かした。

清泉女学院短期大学小林、二方、桜井ゼミの受け入れ：乳幼児期の子どもに適切な遊具、遊びについて意見交換を行い事業の参考にした。

信州大学教育学部山岸ゼミとの連携：卒業研究に協力し、利用者のアンケート調査を行い、エビデンスとして広場事業の展開に活用している。

・妊娠から継続した子育て支援とし、休日マタニティセミナー（長野市保健所との協働事業）、プレネイタルミーティング、ホームスタート産前産後支援、ねんねの会、ねんねの次の会へと体系化ができた。

## ・資源の循環、エンパワメントの場

セミナー等では、遊びに来ている父親・母親に産後・育児等の話をしてもらおうがセミナーの出席者の場合も多い、またねんねの会等では、参加した母親が運営に手伝いをするなど資源の循環、のエンパワメントの場ともなっている。

## ・職員の資質向上に努めた

長野県、長野市、社会福祉協議会、子育てひろば全国連絡協議会主催の各種研修会に職員を派遣し、資質、サービスの向上を図った。

## (2) 指定管理者業務実施上の課題

・日々より質の高いサービスの提供に心掛け、利用者が安心して遊べる安全な場所の提供のため、スタッフの配置を日中多くしているので、財政的に厳しく、専門性の高い職員の正規雇用が困難である。

・駐車場から遠くまた有料であるといった施設の制約のある中で、いかに特色のあるサービスが提供できるかが課題である。また、アンケート調査では改善点として駐車場を上げている人が61%で、前回調査より10ポイント高くなっている。駐車料金が払える人しか来れなくなっているのか課題である。また、他機関との連携の中で、駐車料金が掛かるので、じゃん・けん・ぼんではイベントができないとの声も聞かれるなど制約にもなっている。

・子どもが遊び慣れた身近な場所での託児が求められている。保育所の一時預かりとは競合しない短時間の託児が課題である。

## (3) 次年度以降の取組み

## 育児不安への支援

・利用者の63%が自分が育った市町村以外で孤独感、負担感を抱え出産・育児をし、産後うつ危険性も高い。妊娠・出産・育児の継続的支援の充実が必要であり、プレママサロン等を開催し、継続的なつながりがより多くできるようにしていきたい。

## 待つ支援から出向く支援（出張ひろばの開催）

・現在長野市内は、公共交通機関も縮小され、またじゃん・けん・ぼんは駐車料金がかかるので行かれない等の声も多く聞かれる。そこで待つだけでなく、出て来にくい地域に出向き、地域密着の保護者の育児支援を保健センター等と共催で行う。

## キャリア事業の開催

・子育て中の母親が持っている力を地域社会とつなげて、エンパワーできる機会をつくる。

・利用者の半数は「働いている」「育休中」であるので、利用者の求めている利用形態や環境等を解明し利用者増につなげる。

・子育てをしながら就労を希望する母親が多い状況なので、両立できるように就労支援セミナーを行う。

## 父親への支援

・アンケート調査結果によると、子育てのサポート資源は「実父・母」の存在から、身近な「配偶者」へ変化した。父親の悩みなどの声も聞かれるので、お父さん講座等で父親への支援も課題である。

## 【指定管理者自己評価基準】

A：計画や目標を上回る、B：計画や目標をやや上回る、C：計画や目標どおり、D：計画や目標をやや下回る、E：計画や目標を下回る